

やってみよう！パソコンデータ入力 Ver3.1  
- サーバー構築設定手順書 -

2010年11月15日

## 目次

目次	2
1. 準備いただくもの	3
1.1. 準備	3
2. SQLServer2008 R2 ExpressEditionのインストール	4
2.1. インストールの前に	4
2.2. インストール	6
2.3. 設定一覧	11
2.3.1. 機能の選択からサーバーの構成までの設定	11
2.3.2. データベースエンジンの構成	11
3. SQL Serverの設定	12
3.1. リモートから接続	12
4. やってみよう！パソコンデータ入力Ver3.1用データベースの作成	20
5. マスターデータの登録	21
6. 共有フォルダの作成	24

## 1. 準備いただくもの

### 1.1. 準備

「やってみよう！パソコンデータ入力 Ver3.1 ネットワーク対応」版サーバー構築にあたり、まず、以下のご準備をしてください。

No	準備いただくもの	方法
1	OS (Windows2003Server または、Windows2008Server)	左記のサーバーOS のパソコンをご準備いただき、必ず WindowsUPDATE を行なってください。
2	サーバー構築セット	障害者職業総合センターよりダウンロード頂きました本手順書を含むフォルダー一式をご準備ください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本手順書</li> <li>・ データベース作成スクリプト</li> <li>・ 移行ツール</li> </ul>
3	Microsoft SQLServer2008R2 ExpressEdition (SQLEXPADV_x86_JPN.exe)	※1 Microsoft 社ホームページよりダウンロードをしてください。

※1. Microsoft SQLServer2008R2 ExpressEdition ダウンロード URL (2010 年 11 月現在)

下記 URL より、「SQLEXPADV\_x86\_JPN.exe」をダウンロードしてください。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=E08766CE-FC9D-448F-9E98-FE84AD61F135&displaylang=ja>

- SQL Server 2008 R2 Express の個人用コピーを登録してください。
- SQL Server 2008 R2 Express を使ってアプリケーションのビルドや配布を行う場合は、[無償再配布権](#)にサインアップしてください。
- SQL Server 2008 R2 の機能強化のために、[Microsoft® Connect](#) にログ情報をお寄せください。

[↑ ページトップへ](#)

---

**このダウンロードに含まれるファイル**  
 以下は、このダウンロードに含まれている各ファイルへのリンクです。該当するファイルをダウンロードしてください。

ファイル名 :	ファイル サイズ	
SQLEXPADV_x64_JPN.exe	851.1 MB	<a href="#">ダウンロード</a>
SQLEXPADV_x86_JPN.exe	778.9 MB	<a href="#">ダウンロード</a>

[↑ ページトップへ](#)

---

**関連リソース**

- [埋め込み、アップグレード、およびカスタム インストール](#)

URL は Microsoft 社により変更になる場合があります。もし上記画面が出ない場合は「SQLEXPADV\_x86\_JPN.exe」にて検索をしてください。

## 2. SQLServer2008 R2 ExpressEditionのインストール

### 2.1. インストールの前に

SQLServer2008 R2 ExpressEdition のインストールにあたり、以下 Microsoft 社のソフトが必要になります。  
下記 1～3 がインストールされていない場合、SQLServer2008 R2 ExpressEdition をインストールすることが出来ません。

No	必要なソフト	インストール方法
1	.NET Framework 3.5 SP1	WindowsUPDATE にてインストールされます。 「コントロールパネル」⇒「プログラムと機能」にて「Microsoft .NetFramework3.5」(以上であれば問題ありません)があることを確認してください。もし、無い場合 WindowsUPDATE にて「Microsoft .NetFramework3.5」をインストールしてください。
2	Microsoft Windows インストーラ 4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows2003Server の場合</li> <li>※1 Microsoft 社ホームページより「WindowsServer2003-KB942288-v4-x86.exe」を実行し、インストールしてください。</li> <li>■ Windows2008Server の場合</li> <li>既にインストールされていますので、インストールの必要はありません。</li> </ul>
3	PowerShell 1.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows2003Server の場合</li> <li>※2 Microsoft 社ホームページより「WindowsServer2003-KB926140-v5-x86-JPN.exe」をダウンロードし、インストールしてください。</li> <li>■ Windows2008 の場合、下記の手順にてインストールを行います。</li> <li>1. スタートメニューからサーバー マネージャを起動し、[機能] をクリックします。</li> <li>2. 詳細ウィンドウで、[機能の追加] をクリックします。</li> <li>3. [機能] ボックスの一覧で、[Windows PowerShell] チェックボックスをオンにし、[次へ] をクリックします。</li> <li>4. [インストール] をクリックします。</li> </ul>

※1Microsoft 社「Microsoft Windows インストーラ 4.5」ダウンロード先 URL (2010 年 11 月現在)  
・ Microsoft Windows インストーラ 4.5(2003Server 用)

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=5A58B56F-60B6-4412-95B9-54D056D6F9F4&displaylang=ja>

このダウンロードに含まれるファイル		
以下は、このダウンロードに含まれている各ファイルへのリンクです。該当するファイルをダウンロードしてください。		
ファイル名 :	ファイル サイズ	
redist.txt	2 KB	<input type="button" value="ダウンロード"/>
Windows6.0-KB942288-v2-ia64.msu	3.4 MB	<input type="button" value="ダウンロード"/>
Windows6.0-KB942288-v2-x64.msu	2.9 MB	<input type="button" value="ダウンロード"/>
Windows6.0-KB942288-v2-x86.msu	1.7 MB	<input type="button" value="ダウンロード"/>
WindowsServer2003-KB942288-v4-ia64.exe	24.6 MB	<input type="button" value="ダウンロード"/>
WindowsServer2003-KB942288-v4-x64.exe	4.5 MB	<input type="button" value="ダウンロード"/>
WindowsServer2003-KB942288-v4-x86.exe	2.9 MB	<input type="button" value="ダウンロード"/>
WindowsXP-KB942288-v3-x86.exe	3.2 MB	<input type="button" value="ダウンロード"/>

※2Microsoft 社「PowerShell 1.0」ダウンロード先 URL（2010 年 11 月現在）

・ PowerShell 1.0

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=C61FB27B-E71C-4ECF-9D2C-9B299B149490&displaylang=ja>

**ダウンロード**

このページの内容

ファイル名 :	WindowsServer2003-KB926140-v5-x86-JPN.exe
バージョン :	926140
サポート技術情報 (KB) の記事 :	<a href="#">KB926140</a>
公開された日付 :	2008/06/23
言語 :	日本語
ダウンロード サイズ :	1.7 MB
推定ダウンロード時間 :	ダイヤルアップ (56K) ▼ 4 分

言語の変更 :  ▼

## 2.2. インストール

インストールには、Microsoft SQL Server 2008 R2 RTM - Express with Management Tools, P3 でご用意頂いた「SQLEXPADV\_x86\_JPN.exe」を実行します。

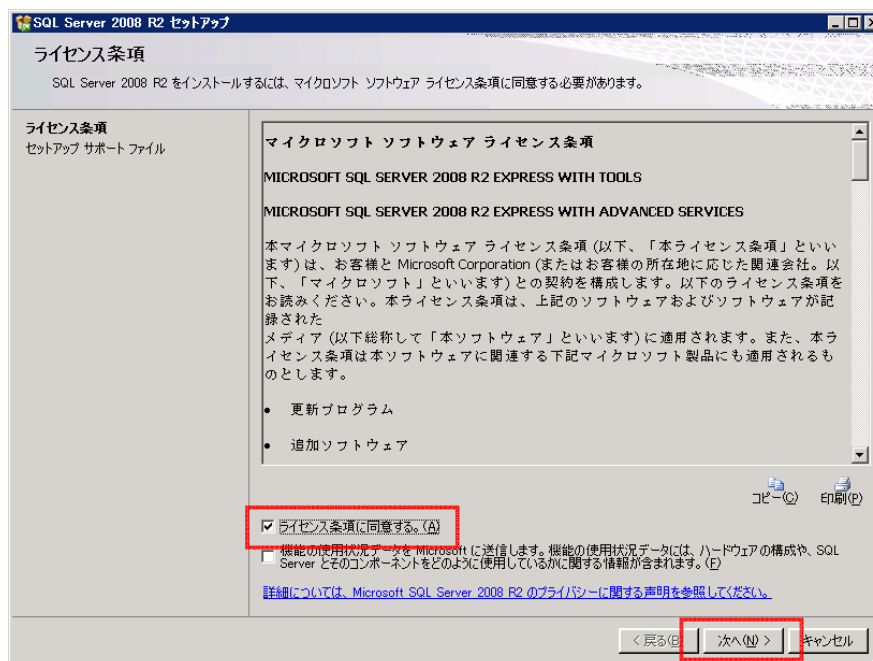
### 1. インストーラーの起動



インストーラーを起動すると上の画面で止まります。

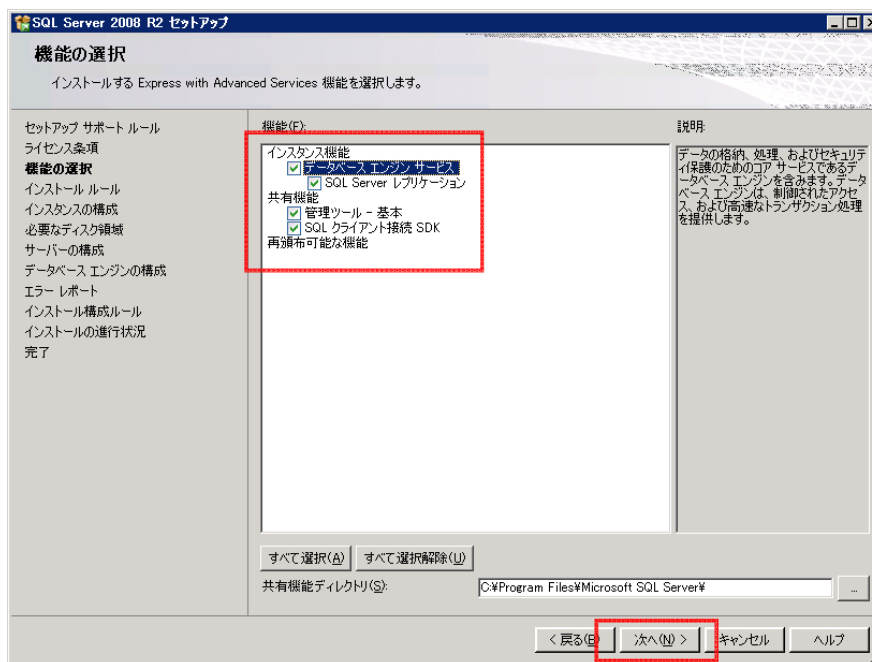
『新規インストールを実行するが、既存のインストールに機能を追加します。』をクリックします。

### 2. ライセンスに同意



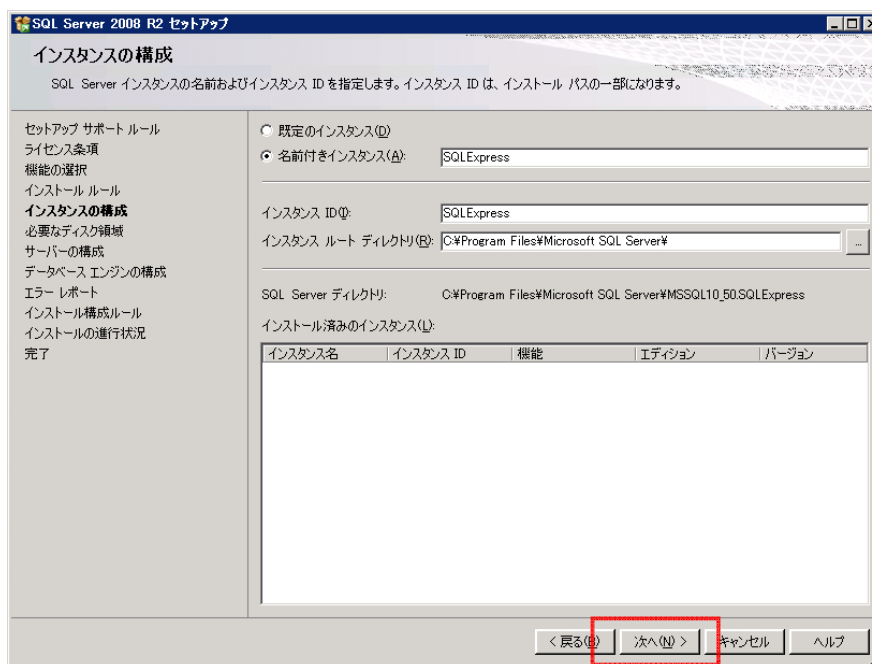
上記画面で止まり、ライセンスへの同意を求められるので、『ライセンス条項に同意する。』をクリックして、チェックを入れた上、『次へ』をクリックします。

### 3. 機能の選択



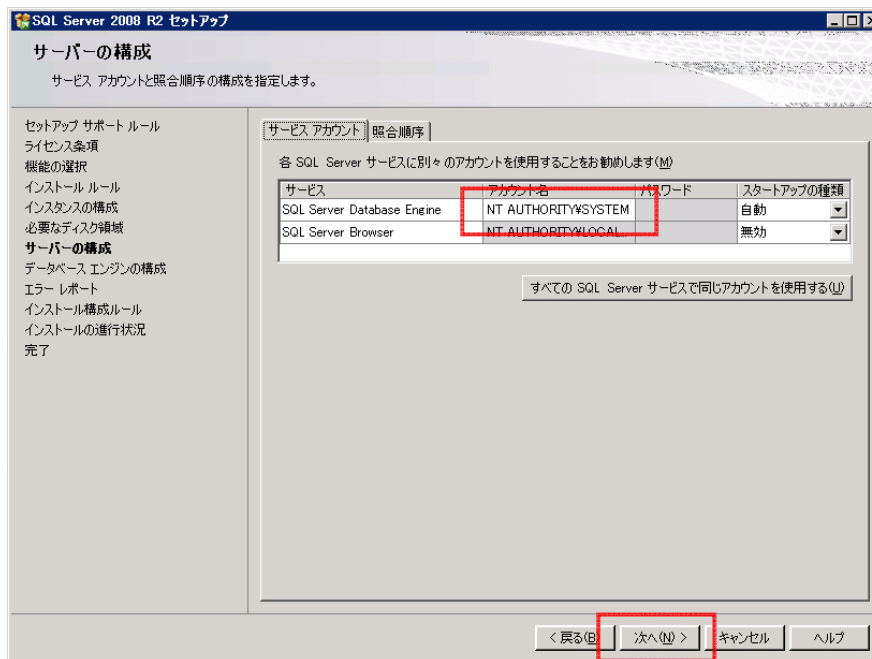
インストールする機能を選択する画面で止まります。全て選択されていることを確認して、『次へ』をクリックします。

### 4. インスタンスの構成



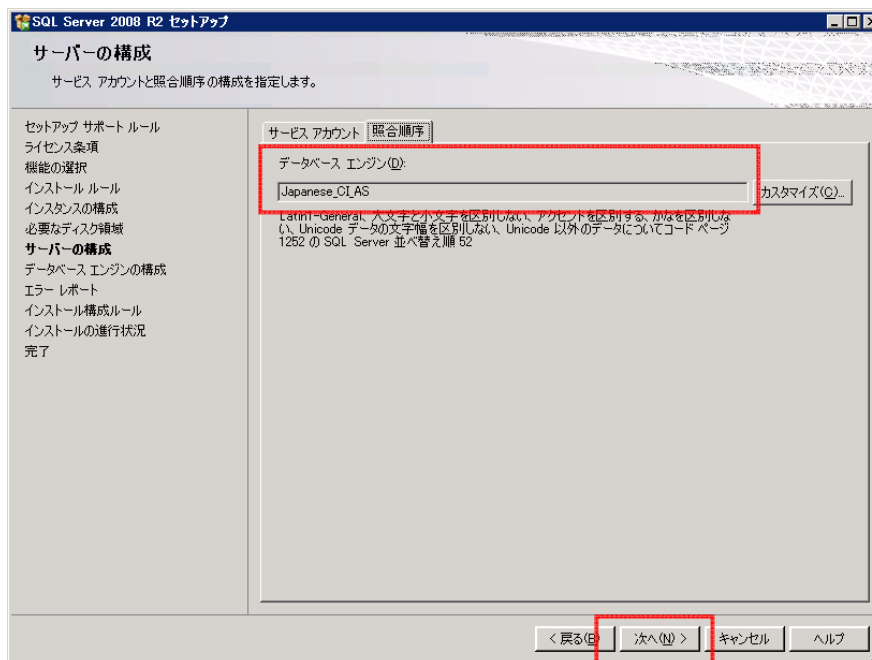
データベースサーバーの構成を設定する画面で止まります。初期値のまま、変更の必要はありません。『次へ』をクリックします。

5. サーバーの構成



SQL Server サービスに関する設定を行う画面で止まります。SQL Server Database Engine のアカウント名をプルダウンから『NT AUTHORITY\SYSTEM』を選択します。パスワードは空のままにしてください。

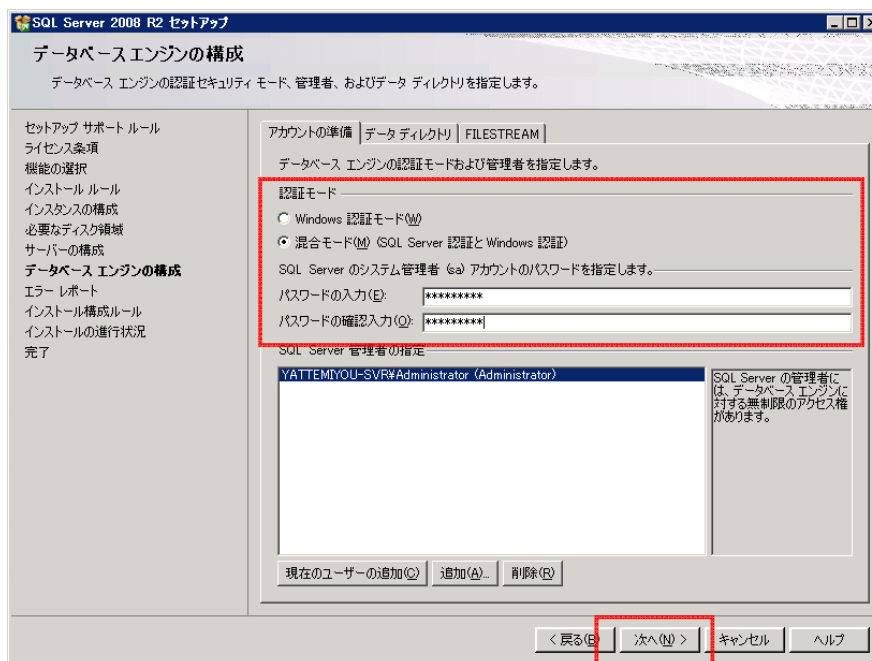
次に照合順序タブを開いて、『データベース エンジン』が『Japanese\_CI\_AS』であることを確認してください。



確認ができましたら、『次へ』をクリックします。



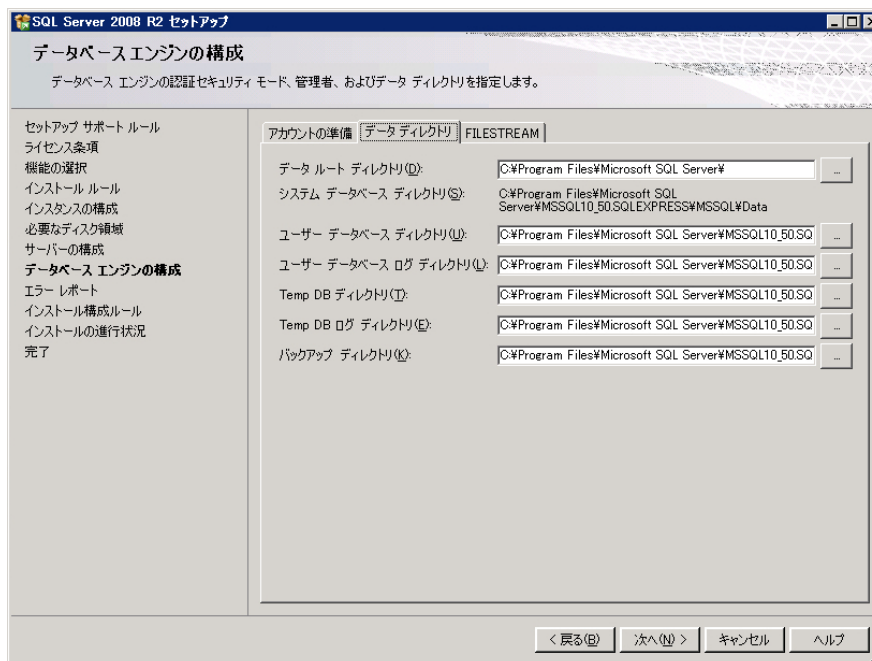
6. データベースエンジンの構成

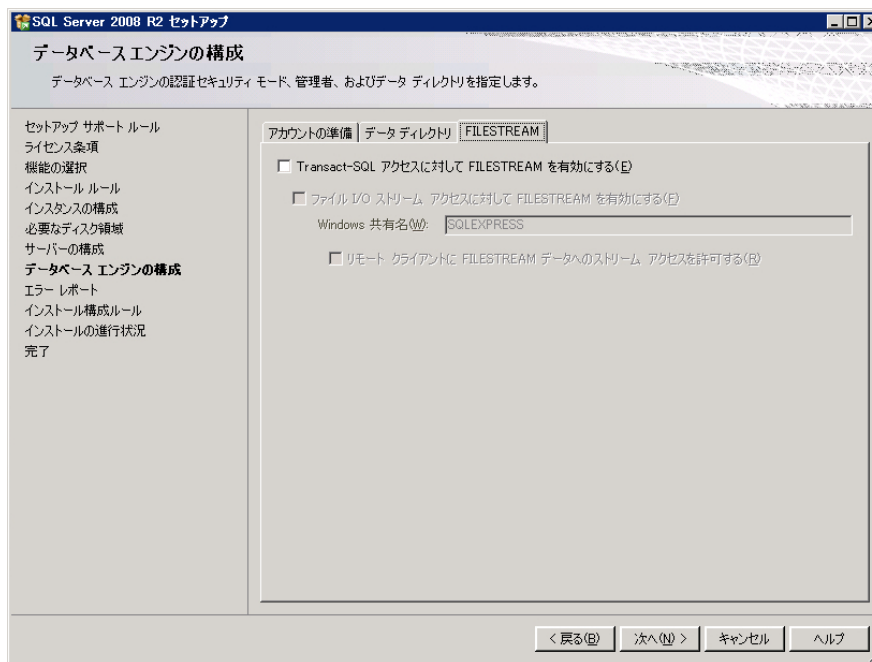


データベースの別の設定を行う画面で止まります。初期値では、『Windows 認証モード』が選択されていますが、『混合モード』を選択します。

『SQL Server のシステム管理者 (sa) アカウントのパスワードを指定します。』にデータベースの管理者用のパスワードを入力します。

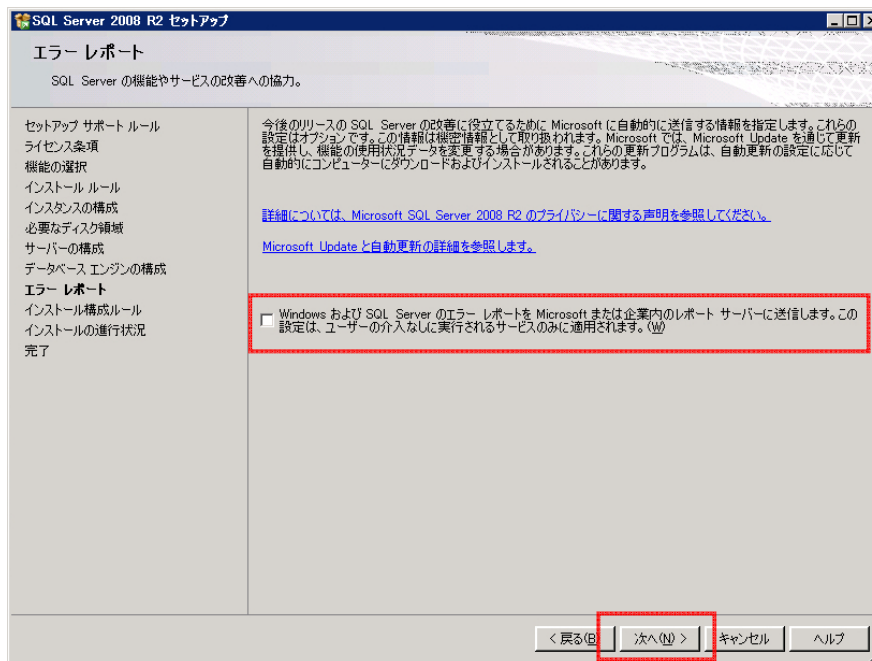
データディレクトリタブと、FILESTREAM タブは以下の画面のようになっておりますが、変更の必要はありません。





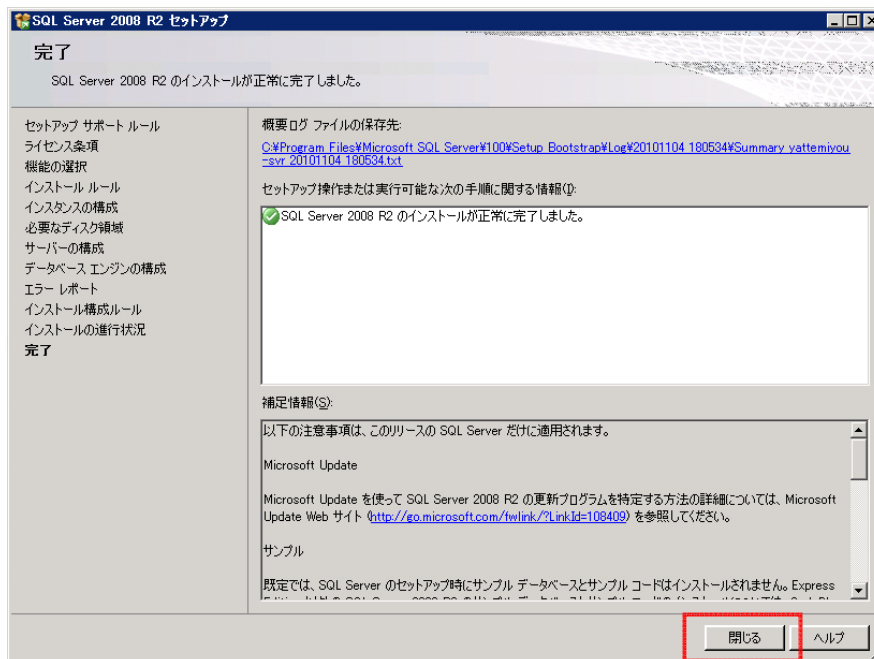
『次へ』をクリックします。

## 7. エラーレポート



エラーが発生した場合に、その内容をマイクロソフトに送信するオプションを選択できますが、何も変更しないで、送信しない初期値のまま、『次へ』をクリックします。

8. インストールの完了



以上の画面が出ましたら、インストールが完了しました。『閉じる』をクリックして、インストールを終了します。

2.3. 設定一覧

説明中に出てきた設定の一覧を記述します。

2.3.1. 機能の選択からサーバーの構成までの設定

No	設定	設定内容
1	機能の選択	データベース エンジン サービス SQL レプリケーション サービス 管理ツール - 基本 SQL クライアント接続 SDK
2	インスタンス	名前付きインスタンス → SQLExpress
3	インスタンス ID	SQLExpress
4	サービス アカウント SQL Server Database Engine	NT AUTHORITY¥SYSTEM
5	照合順序(データベースエンジン)	Japanese_CI_AS

2.3.2. データベースエンジンの構成

No	タブ	設定	設定内容	備考
1	アカウントの準備	認証モード	混合モード	
2		ビルトイン SQL Server システム管理者アカウントのパスワード	(非公開)	
3		SQL Server 管理者の指定	Administrator	

### 3. SQL Serverの設定

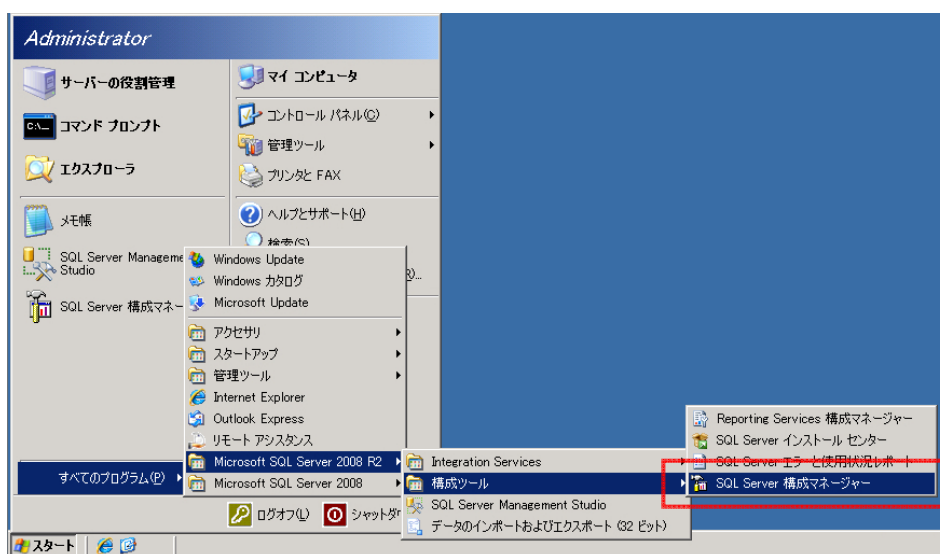
インストールに続いて、「やってみよう！パソコンデータ入力 Ver3.1 ネットワーク対応」版に必要な設定を行ないます。

#### 3.1. リモートから接続

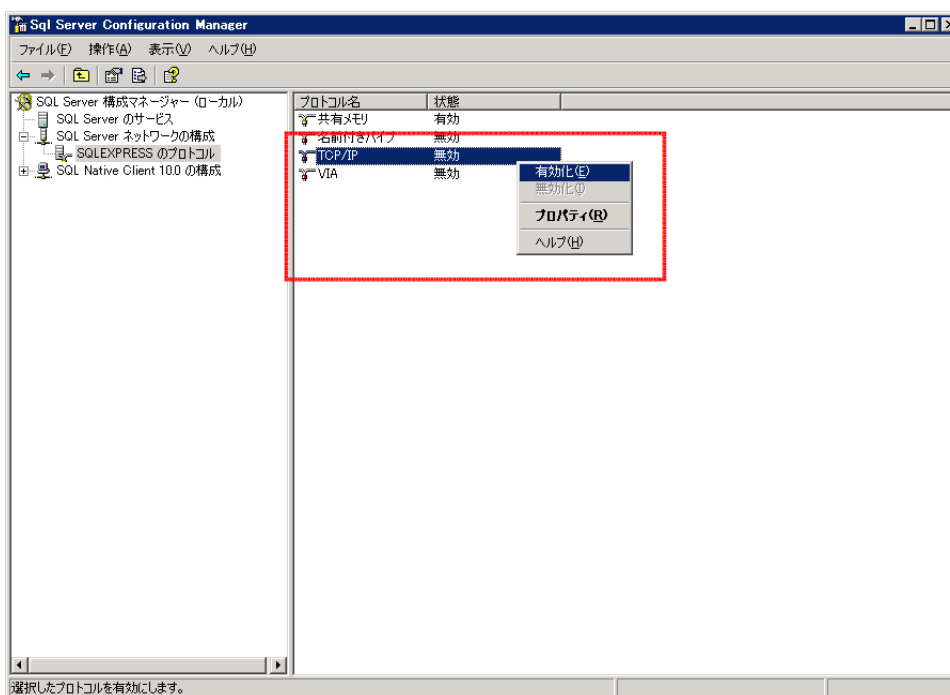
サーバー以外のマシンから接続できるように設定を変更します。

##### 1. SQL Server 構成マネージャを起動

すべてのプログラム → Microsoft SQL Server 2008 R2 → 構成ツール → SQL Server 構成マネージャーをクリックします。

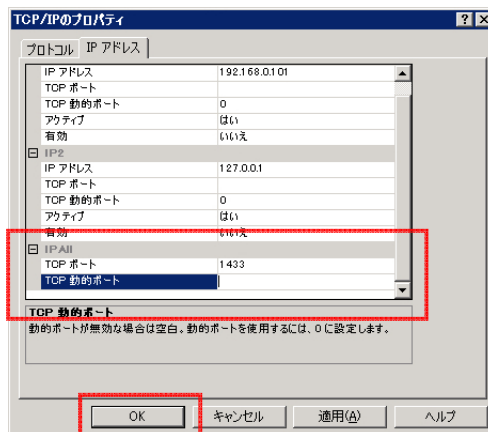
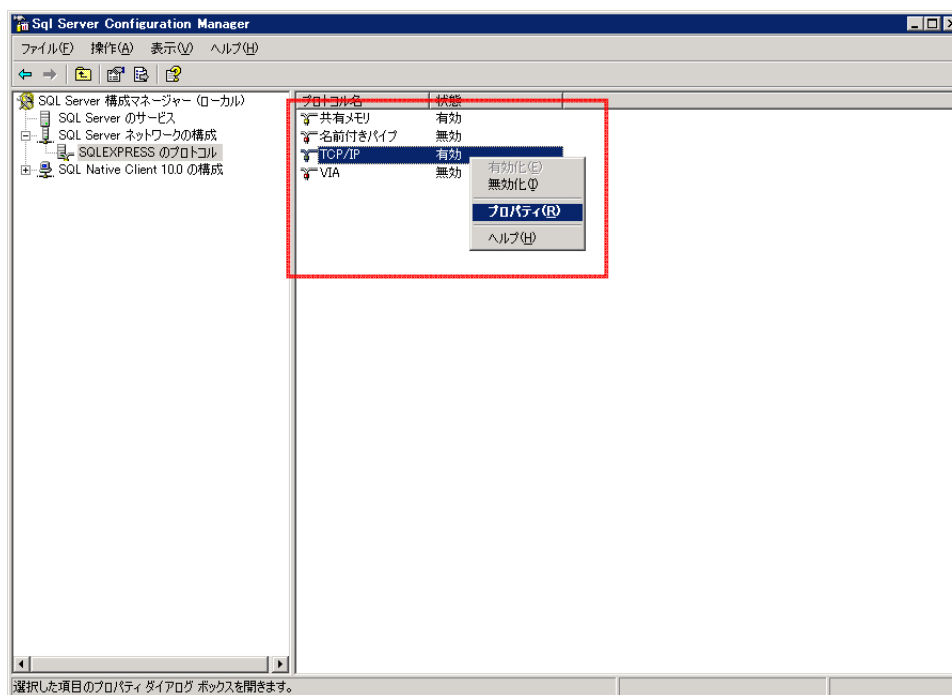


##### 2. プロトコルの設定



SQL Server 構成マネージャ → SQL Server ネットワークの構成 → SQLEXPRESS のプロトコル → TCP/IP を右クリックして、メニューから『有効』を選択します。

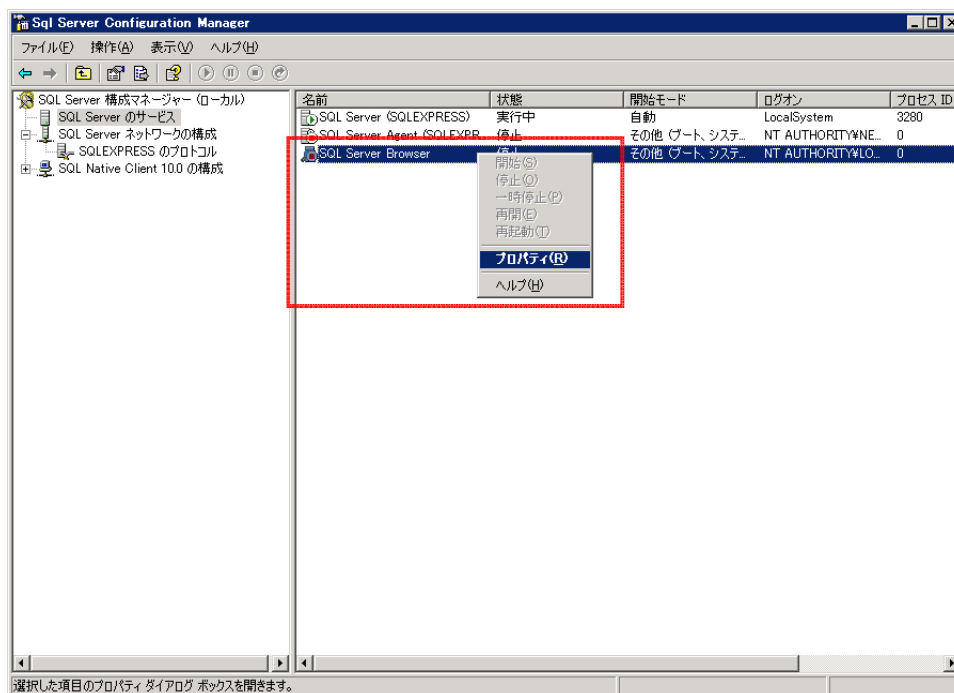
### 3. ポートの設定



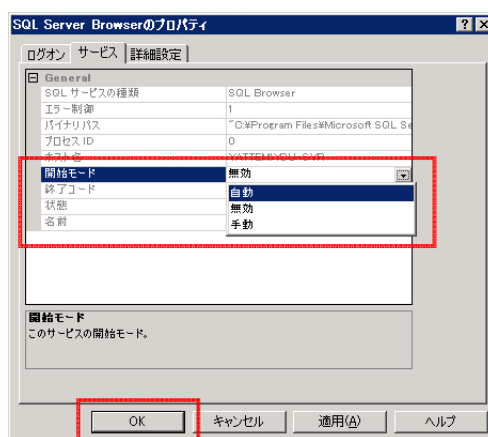
同じ画面のまま、TCP/IP を右クリック → プロパティ → IP アドレスタブ → IPAll の TCP ポートを 1433 に、TCP 動的ポートを空にします。

変更が終了したら、『OK』をクリックします。

### 4. リモート接続用プログラムの起動設定



SQL Server のサービス → SQL Server Browser を右クリックして、メニューから『プロパティ』をクリックします。



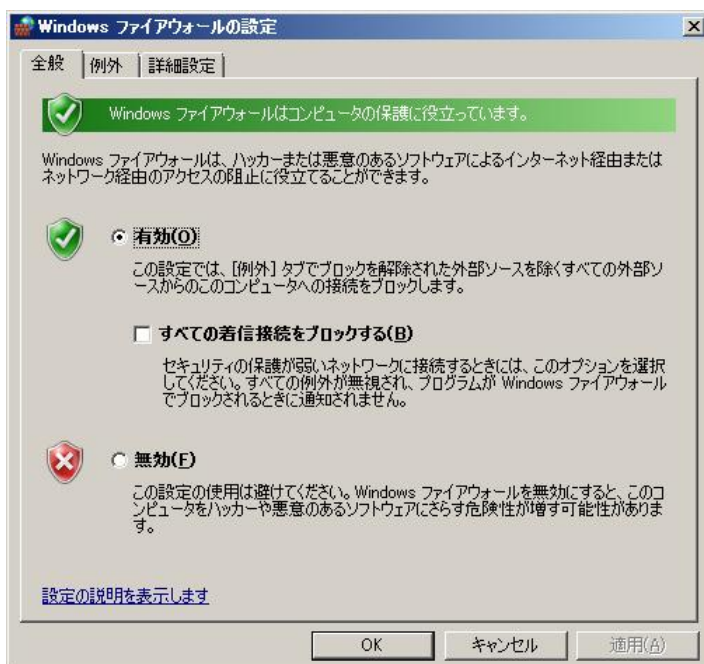
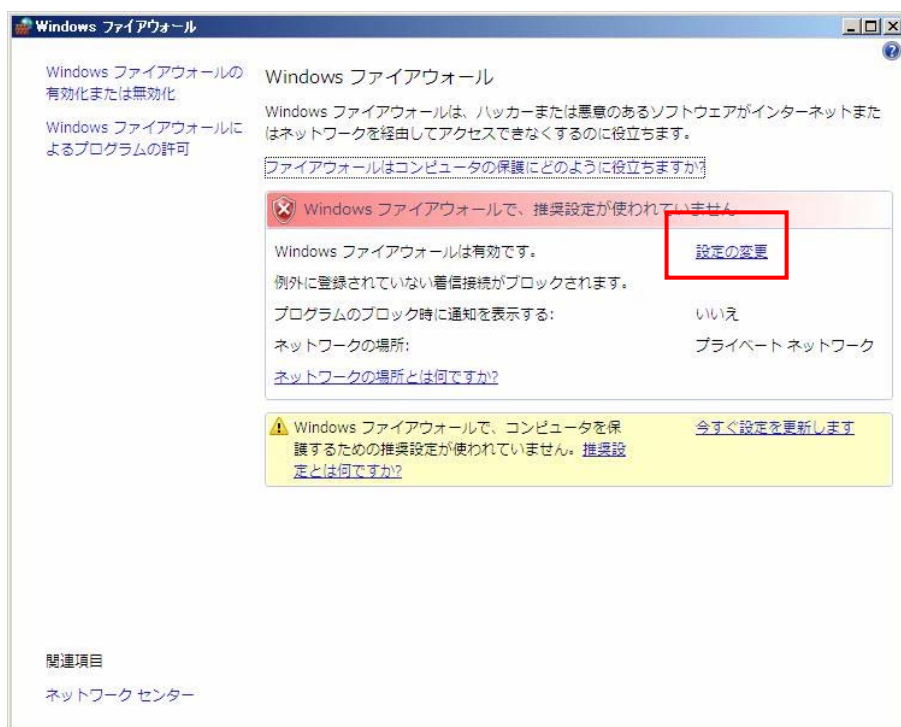
サービスタブをクリックして、開始モードを自動に変更します。変更が終了したら、『OK』をクリックします。

以上でサーバー以外のマシンから接続できるようにする設定は完了です。

※Windows ファイヤーウォールを有効にしている場合は、TCP の 1433 番を受信できるように設定してください。

## 5. Windowsファイアウォールの設定

コントロールパネル → windows ファイアウォール を起動します。(2008Server の場合下記画面にて『設定の変更』をクリックします。)



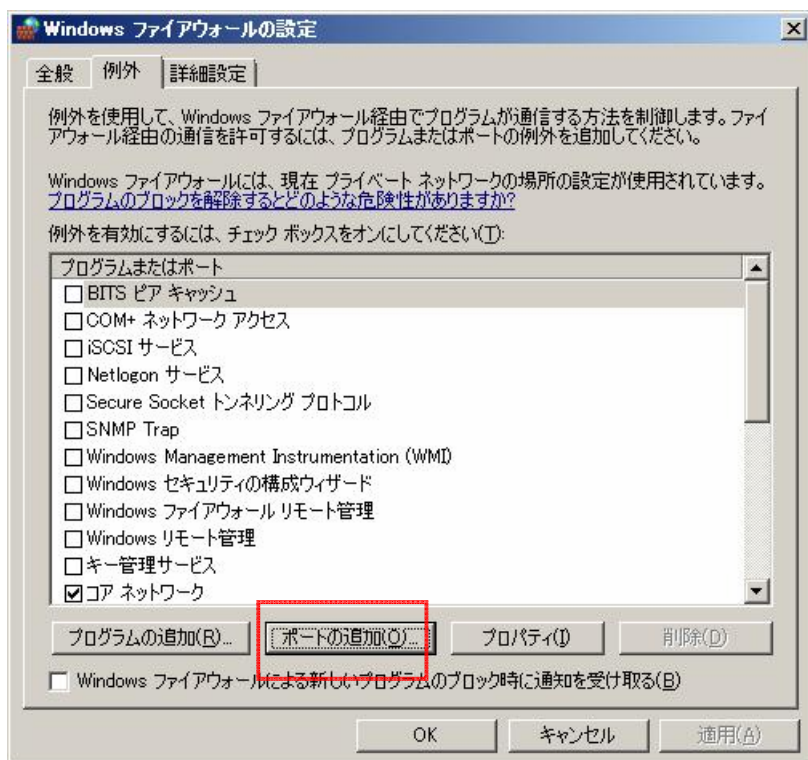
Windows ファイアウォールの設定が「無効（推奨されません）」を選択の場合は、そのまま『OK』ボタンをクリックしてください。

Windows ファイアウォールの設定が「有効（推奨）」を選択の場合は、以降の設定を行ってください。

※Windows ファイアウォールの設定を「有効」にするか「無効」にするかは、セキュリティポリシーに関わりますのでネットワーク管理者様ご判断にてお願い致します。



有効を選択した場合、「例外を許可しない」をチェックオフにし、「例外」のタブをクリックしてください。

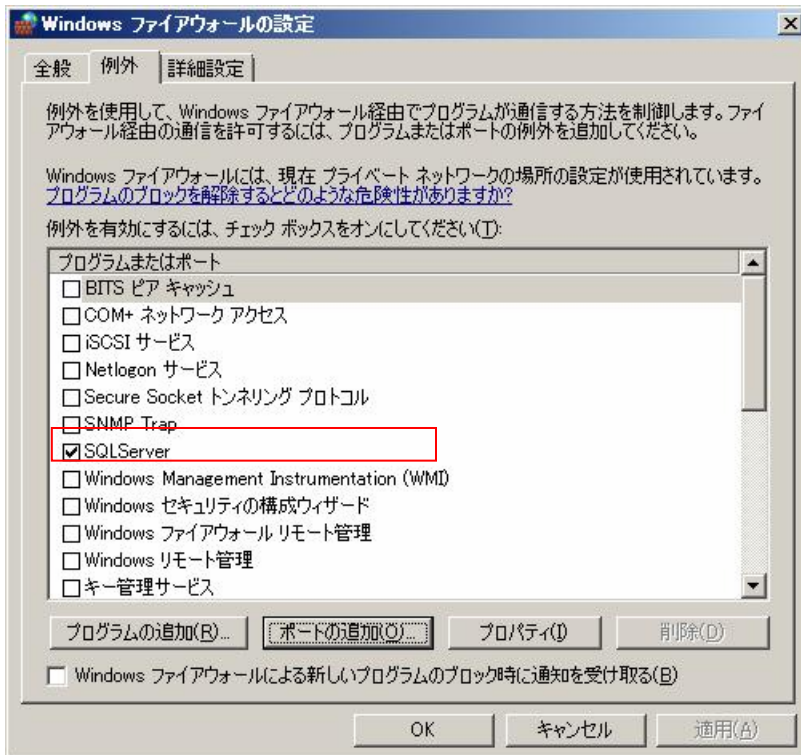


『ポートの追加ボタン』をクリックしてください。



『名前』に「SQLServer」、『ポート番号』に「1433」を設定し、『OK』ボタンをクリックしてください。

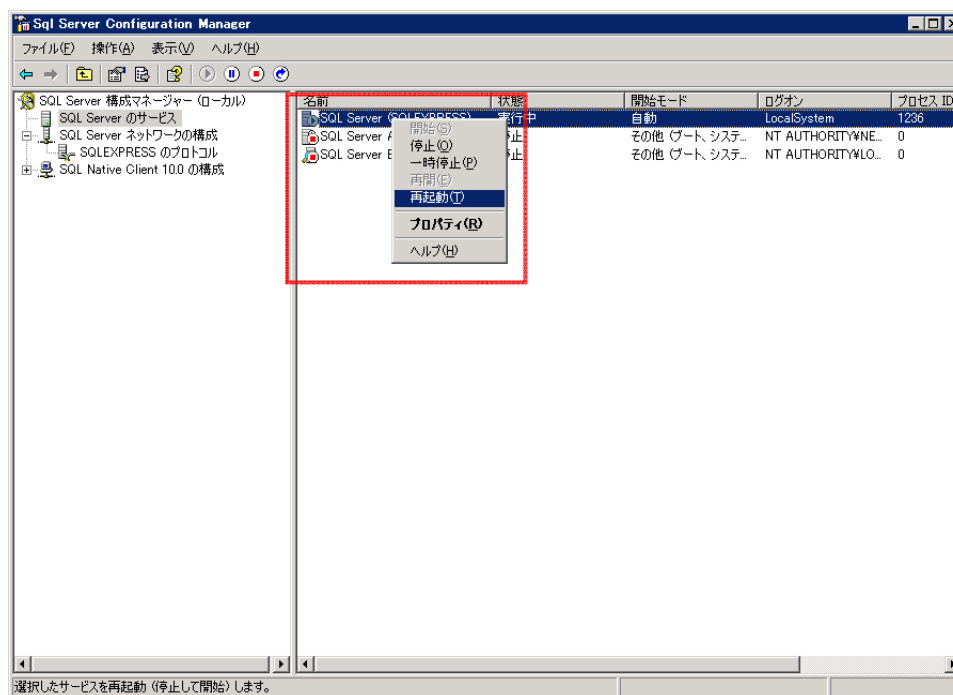




リストに「SQLServer」が追加され、チェックオンになっていることを確認し『OK』ボタンをクリックしてください。

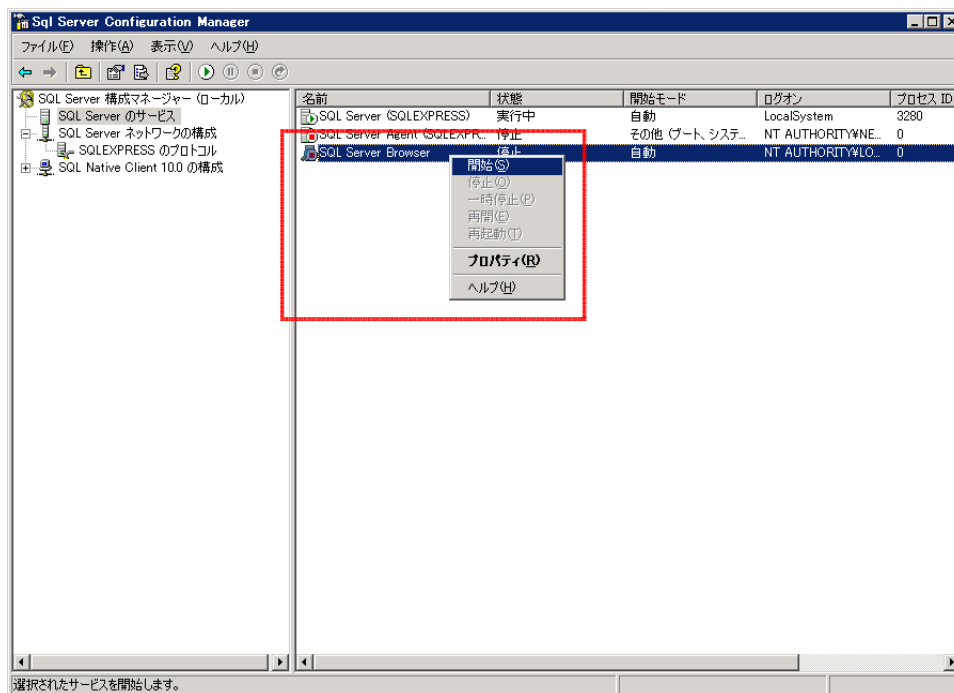
## 6. SQLServer再起動

設定を有効にするために、SQL Server を再起動します。



SQL Server 構成マネージャ → SQL Server のサービスにて『SQL Server (SQLEXPRESS)』を右クリックして、『再起動』をクリックします。

## 7. SQL Server Browser開始

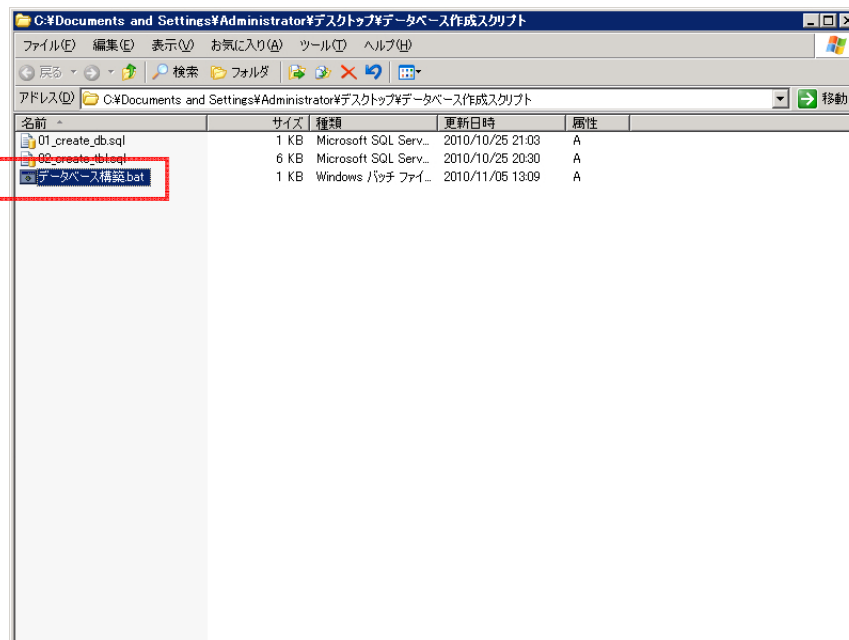


『SQL Server Browser』を右クリックして、『開始』をクリックします。

## 4. やってみよう！パソコンデータ入力Ver3.1 用データベースの作成

やってみよう！パソコンデータ入力 Ver3.1 用「LetsTry01」データベースを作成します。  
作成用のファイルを用意しております。

1. P.3にてご用意頂きました「サーバー環境構築セット」を準備してください



「サーバー環境構築セット」の「データベース作成スクリプト\データベース構築.bat」をダブルクリックします。  
自動でデータベースが作成されます。

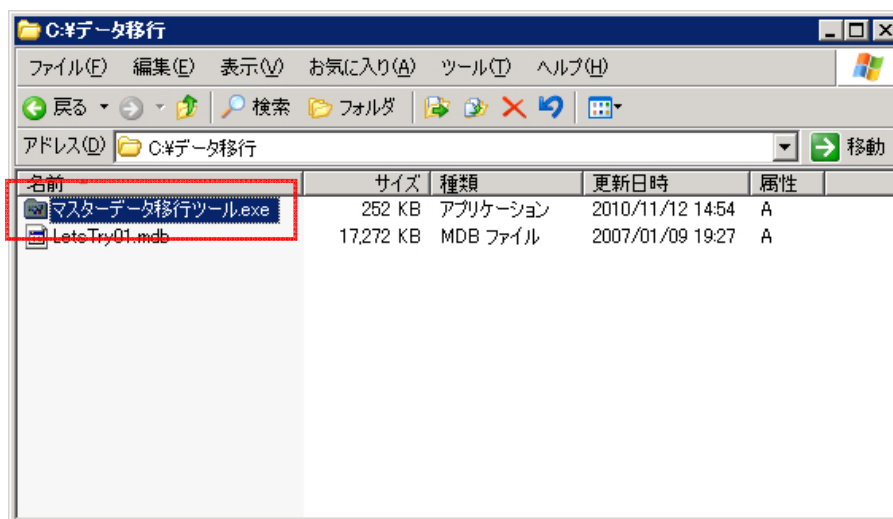
デフォルトで作成されるユーザー名は「**letstry01\_user**」、パスワードは「**letstry01\_password**」になります。  
変更及び、ユーザーの追加を行なう場合は、「スタートメニュー」「すべてのプログラム」「Microsoft SQL Server2008R2」  
「Microsoft SQLServer Management Studio」より行なってください。  
ユーザー名、パスワードは「やってみよう！パソコンデータ入力 Ver3.1」の設定にて必要になりますので忘れないようにしてください。

## 5. マスターデータの登録

マスターデータは、専用の移行ツールで MS Access ファイル(拡張子 mdb)より SQL Server に移行します。

### 1. 移行ツールの起動

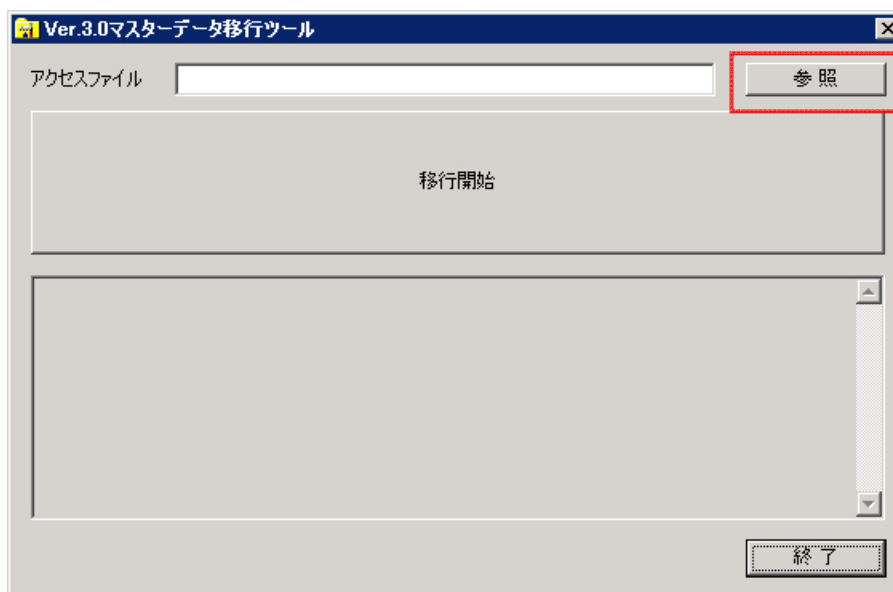
P.3 にてご用意頂きました「サーバー環境構築セット」を準備してください  
移行ツールは SQL Server がインストールされているマシンで実行します。



「サーバー環境構築セット」の「移行ツール¥マスターデータ移行ツール.exe」をダブルクリックします。

### 2. 移行対象アクセスファイルの選択

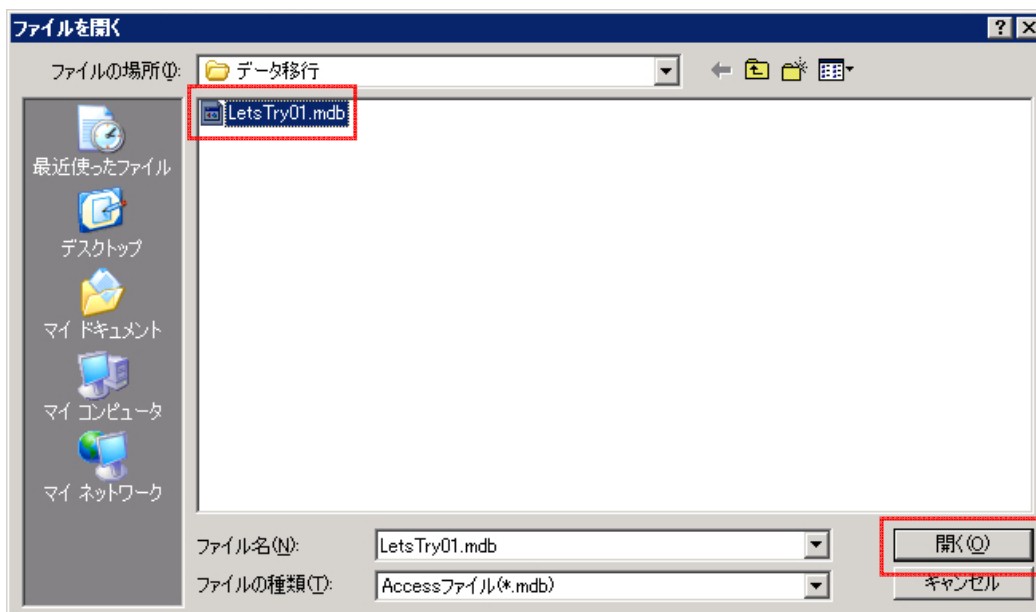
移行ツールが起動されると、下記画面が表示されます。



移行対象のアクセスファイルを選択します。『参照』をクリックしてください。

### 3. 移行対象アクセスファイルの選択 (2)

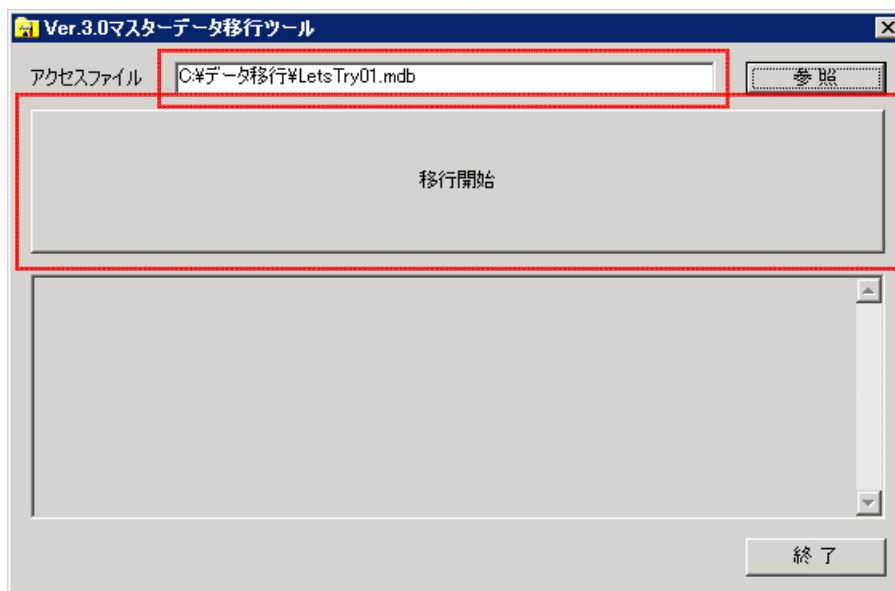
ファイルを選択する画面が表示されます。



「サーバー環境構築セット¥移行ツール¥」にあります「LetsTry01.mdb」を指定し『開く』をクリックしてください。

### 4. 移行の開始

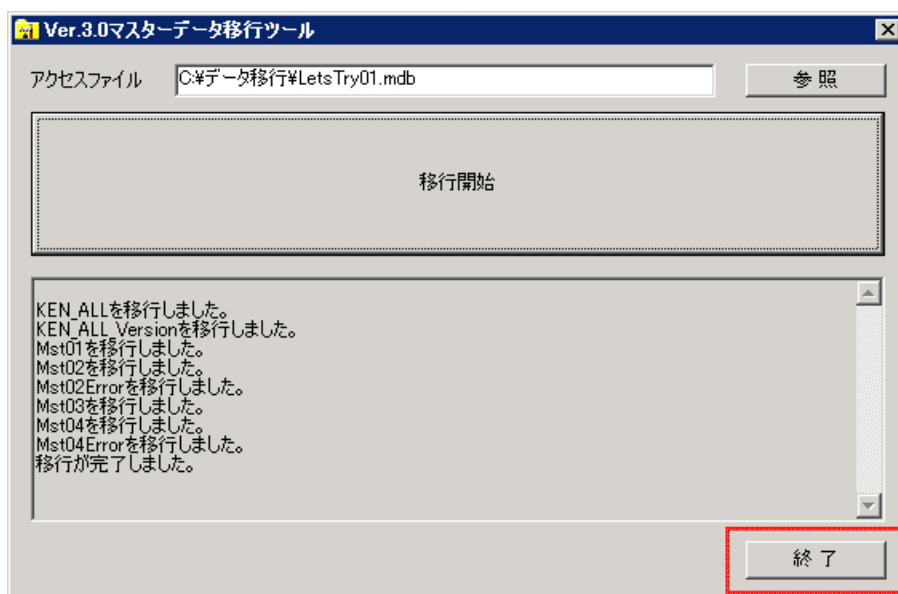
選択したファイルのパスが表示されます。



『移行開始』をクリックすると、移行が始まります。『移行開始』をクリックしてください。

## 5. 移行の完了

移行が完了したデータから表示されていきます。全てのデータの移行が完了すると最後に『移行が完了しました。』のメッセージが表示されます。



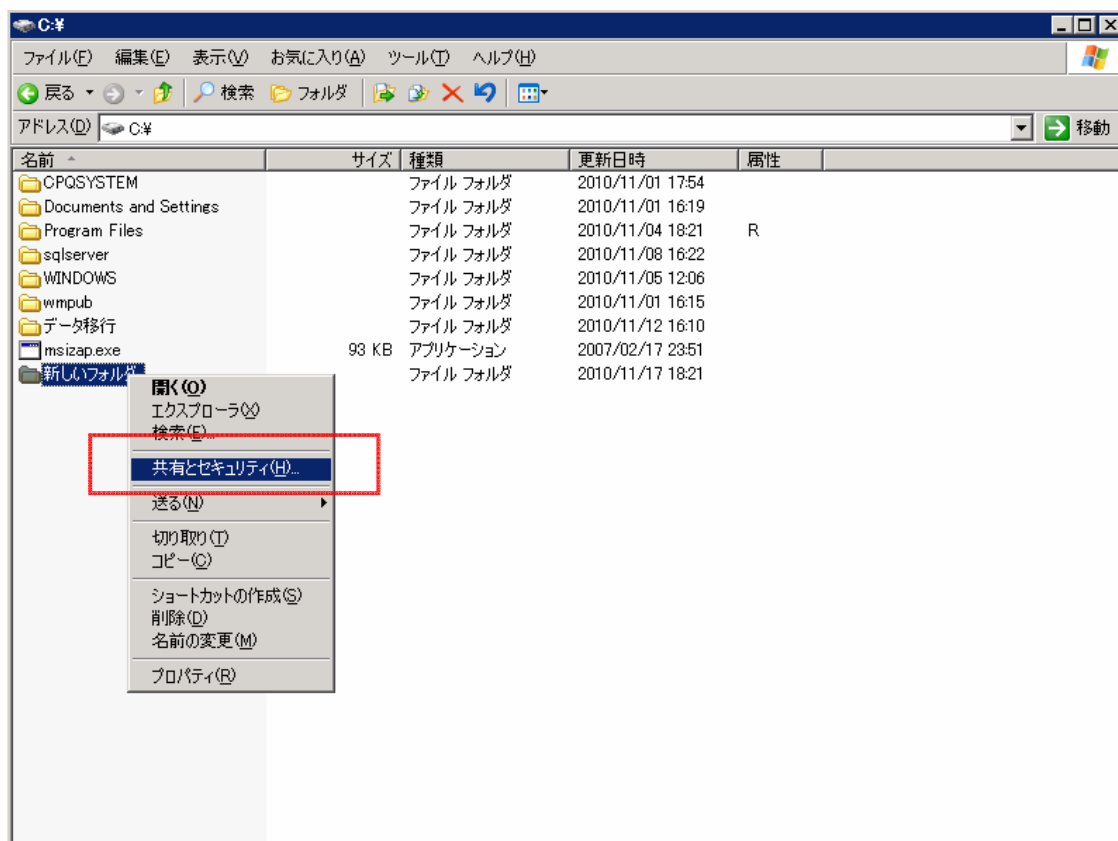
『終了』をクリックして、移行ツールを終了してください。

以上でマスターデータの移行は完了です。

## 6. 共有フォルダの作成

「やってみよう！パソコンデータ入力 Ver3.1 ネットワーク対応」版を使用するには、解析結果保存用の共有フォルダをサーバーに作成する必要があります。

### 1. フォルダの作成



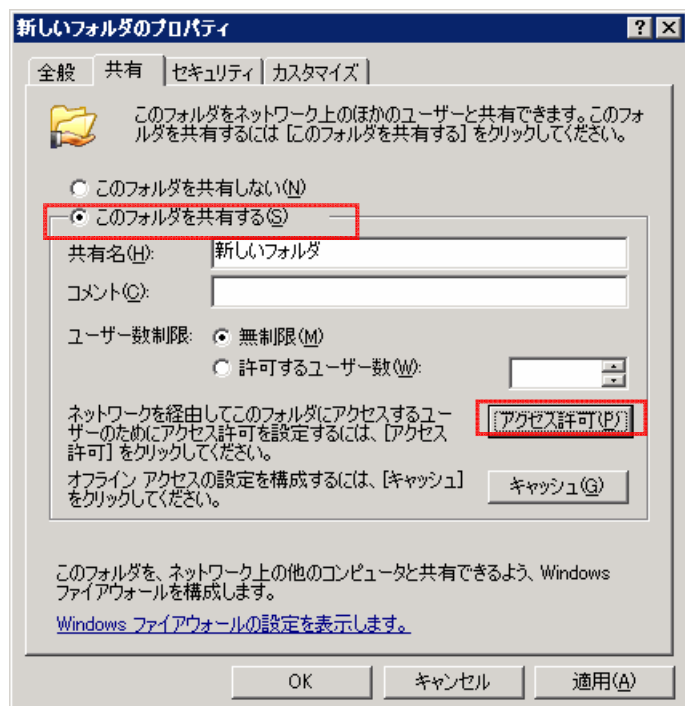
任意の場所にフォルダを作成し、該当フォルダを右クリックで「共有とセキュリティ」をクリックします。

(フォルダ名は何でも構いませんが、ここで設定するフォルダ名は「やってみよう！パソコンデータ入力 Ver3.1 ネットワーク対応」版の設定で必要になりますので、忘れないようにしてください。)



## 2. 共有フォルダの設定

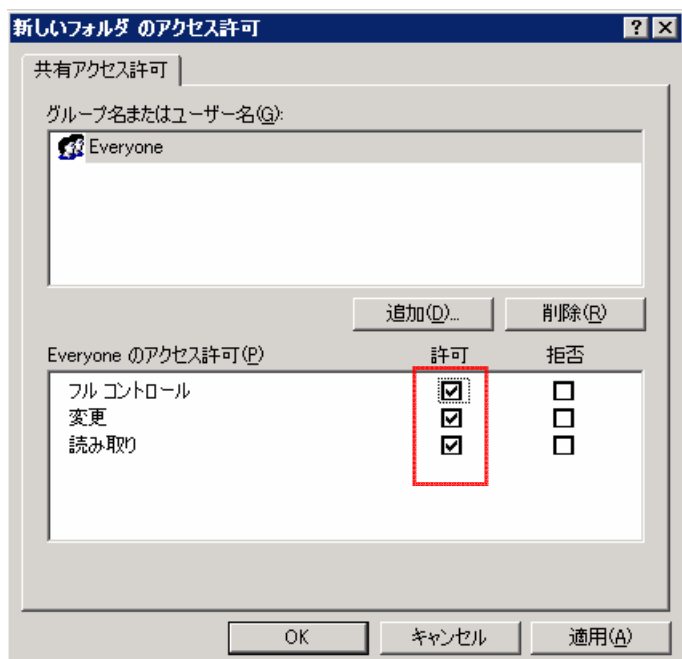
以下のフォルダのプロパティ画面が表示されます。



「このフォルダを共有する」をチェックオンにし、「アクセス許可」ボタンをクリックします。

## 3. アクセス許可

以下のフォルダのアクセス許可画面が表示されます。



許可の欄を全てチェックオンにし、『OK』ボタンをクリックし、フォルダのプロパティ画面で『OK』ボタンをクリックします。

これで、「やってみよう！パソコンデータ入力 Ver3.1 ネットワーク対応」版のサーバー環境構築は完了になります。

以上